



大阪府訪問看護ステーション協会  
大阪府訪問看護災害対策ネットワーク委員会

# がんばろうマニュアル

## 大阪府訪問看護ステーション協会災害対策マニュアルB

災害発生時には、ステーションとして職員や利用者を守るための体制を確立しておくことが必要である。このマニュアルは、事業所が災害時の被害をできる限り最小限にできるような事前の減災対策と災害発生時の訪問看護ステーションとしての対応についてまとめたものである。

形式を整えるだけでは、実際の災害時には役に立たない。定期的に点検や災害訓練をすることで、周知徹底し災害発生時には、自動的に行動に移せるように活用していただきたい。

**注記）本マニュアルは 大阪府訪問看護災害ネットワーク報告書（平成 25 年 4 月作成）より抜粋したものです。**

## I. 経時的な対策の視点

経時的な対策の視点は以下の通りである。時期を事前対策、災害発生直後、災害発生後3日以降に分類し、事業所対策、利用者対策、他機関との連携の3つの視点から災害時の対策の整理を行った。

時期	事業所の対策・対応	利用者への対策対応	他機関との連携
<b>発生前の 事前対策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設・設備点検 施設設備の安全性点検 ライフライン点検 情報収集方法の確保 備品・備蓄の確保 緊急連絡先リスト作成</li> <li>●職員間の連絡体制 職員間緊急連絡網 連絡方法の確認</li> <li>●指揮命令系統 災害時のフローチャート 災害発生時の指揮系統</li> <li>●職員の防災教育 定期的な訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用者の減災教育 連絡先リスト作成 非常用の防災対策指導 重症者への事前対応 緊急支援手帳作成 近隣住民との関わり</li> <li>●利用者の情報整理 連絡先リスト 情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の取り組み 防災マップ 医療機関との連携 行政等の連携 自組織や地域の対策 協議会の対策</li> <li>●情報収集方法</li> </ul>
<b>災害発生 直後 (直後～ 2日)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事務所の設備点検 ライフラインの点検・復旧</li> <li>●職員の安否確認</li> <li>●職員の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安否確認</li> <li>●重症者の支援</li> <li>●救援物資の要請</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の情報収集</li> <li>●近隣の事業所連携</li> <li>●主治医・医療機関との連携</li> </ul>
<b>災害発生時 対応 (3日以降)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所設備の復旧</li> <li>●職員確保 職員の心身の健康管理 応援受け入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●訪問看護の提供 避難所への訪問 必要物品の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他機関との連携 ステーション間の相互支援</li> </ul>

## II. 事前対策（減災対策）

### 1. 想定される災害の予測

地震発生時に自分の地域ではどんな災害が発生するか予測をたてて準備する必要がある。たとえマニュアルがあっても、日頃から職員間の災害に対する危機意識がないと、いざという時に役に立たない。天災は不可抗力であるが、事前準備をすることで被害を最小限にできるという事を念頭にいれて各ステーション内で取り組もう。

## 2.ステーションの施設設備点検・事前準備

### 1) 定期的な事務所の設備点検の実施

訪問看護ステーションに求められるのは、『災害時にも利用者への訪問が継続できること』である。日頃から、事業所の設備や備品をチェックしておこう。

項目	詳細	点検項目	点検日	サイン
消火設備	スプリンクラー	作動時の点検		
	消火器	期限チェック・点検		
警報設備	火災報知器	定期点検		
	ガス漏れ報知器	定期点検		
	漏電警報器	定期点検		
避難設備	非常口 防火扉 避難通路	通路の確保 障害物の撤去		
棚	転倒防止	背の高い棚は固定		
	落下防止策	重い物を下に置いている 棚の扉がついている		
書庫	転倒防止・落下防止	棚の固定 扉が閉まる		
PC	サーバーの安全確保	浸水防止できる場所に設置		
エレベーター	耐震計の作動			
危険物	火災・爆発の原因になる危険物（ガス器具・薬品）の点検			
ガス器具	感震自動遮断装置が取りついている			

### 2) ライフライン・情報収集関連の点検

災害時に最も不安なことは、ライフラインが途絶えたり、火災などの二次災害を招くことである。できる限り早く情報を収集し、災害を最小限にとどめるために点検は定期的  
に実施しておこう。

項目	点検項目	点検日	サイン
電気	漏電点検（電気コードなどの老朽化の点検）		
	たこ足配線の有無		
	ブレーカーの場所確認		
	充電器の確保		
水道	非常用水の有無		
	飲用水備蓄の確保		
電話	災害時優先回線番号の設置		
	電池式の携帯電話用充電器の有無		
	災害時伝言ダイヤルの設定		
ガス	ガス漏れ通報装置の点検		
PC	データのバックアップ		
	サーバー置き場所の安全		
テレビ ラジオ	携帯ラジオの作動点検		
	カーラジオやワンセグテレビの有無		
大阪防災ネットの登録			
ブロック内・地区協議会/連絡会連携用ML・LINEの登録			
ブロック内・地区協議会/連絡会連携用MCSの登録・更新			

### 3) 備蓄品点検

災害が、発生すると3日間は流通が途絶えて店に商品がなくなる。ステーション内で生活することはないが、取り残される可能性はあるかもしれないという視点で整備は必要。食品などは使用期限があるので定期的に入れ替えを行おう。

- [備蓄品の種類]   ○非常用品   ：   軍手 懐中電灯、ロープなどの  
                   ○職員用の食糧や飲料水   ： 勤務する職員の3日分の食品類  
                   ○訪問看護用品   ： 訪問かばん 創部処置用消毒薬 など

備蓄品リスト				
飲料水	ペットボトル	ℓ	本	
	スポーツ飲料	ℓ	本	
食品	乾パン	個		
	飴 キャラメル			
	クラッカー	ビスケット		
消耗品	ゴミ袋	枚		
	プラ手袋	1箱		
	タオル			
	紙おむつ			
	消毒ジェル			
備品	懐中電灯			
	ヘルメット			
	軍手			
	毛布			
	使い捨てカイロ			
	タオル			
	ナイフ・はさみ			
	ブルーシート	・レジャーシート		
	ロープ			
	携帯ラジオ			
	ホイッスル			
	雨具			
	衣類予備			
看護用品	訪問セット (体温計 血圧計 聴診器 )			
	アルコール綿花			
	ドレッシング剤			
	オリーブオイル			
	充電式吸引器			
	吸引チューブ			

#### 4) 災害時緊急連絡先リストの作成

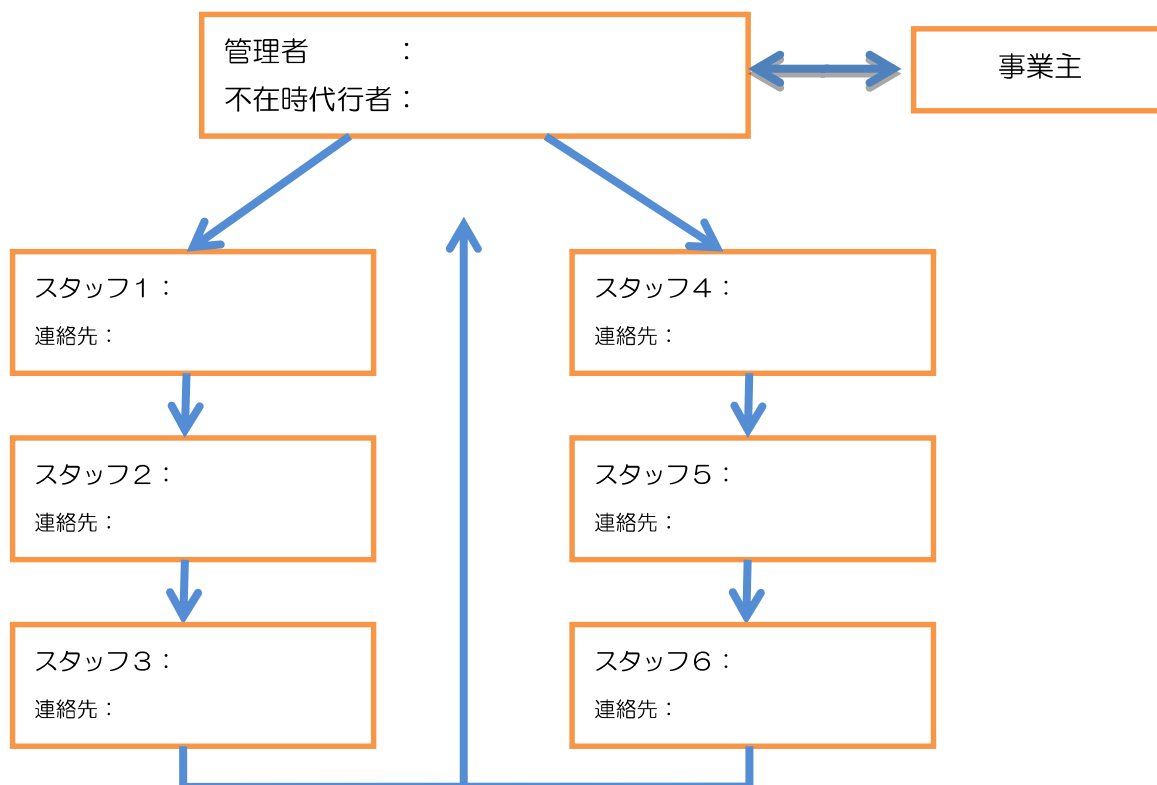
緊急連絡リストは、すぐに利用できるように 事務所内に掲示しておこう。  
災害時には、地域全体がパニック状態になるので情報が錯綜することが予測される。  
管理者が不在であっても、外部との連絡をとり情報を収集するため、連絡先リストは  
作成し定期的に確認しておこう。

連絡先	電話番号
消防署・救急車	119
警察署	110                      〇〇〇-1234
災害用伝言ダイヤル	171
大阪ガス 〇〇営業所	
関西電力株式会社	
水道局〇〇営業所	
N T T 〇〇営業所	
〇〇地域包括支援センター	
〇〇市役所	
〇〇保健所	
大阪府訪問看護ステーション協会	
〇〇病院	

## 5) ステーション内緊急連絡網

スタッフ間の緊急連絡網を作ろう。各スタッフ同士で複数の連絡先を確認し、携帯電話とメールを併用し効果的な連絡方法を決めておこう。(例 一斉でメール配信、その後返信など) また、年に一度は災害時伝達訓練を実施しよう。

### ① スタッフの緊急連絡先リストの作成



### ② 災害発生時の指揮命令系統

役割分担をステーションで書き出して整理しよう。スタッフも役割を担うことで当事者意識をもってもらい、みんなで共有していくことが重要。

#### 所内の指揮命令系統及び役割分担

全体の指揮命令	(代行者 ; )
---------	----------

役割	担当者	役割	担当者
スタッフの安否確認の把握		他機関との連絡調整	
利用者の安否確認の把握		物品、物資の管理	
事業所の被害状況の把握		ライフライン状況の把握とその対応	

### 3.防災訓練

各自が自動的に動くようにするために年1～2回は、防災訓練を実施しよう。  
日頃からスタッフ間で防災対策の必要性や役割分担を話しあっておこう。

#### 1) 訓練内容

- ① 情報収集・発信訓練・利用者スタッフの安否確認
- ② 避難訓練・避難経路の周知
- ③ 防火訓練・消火訓練
- ④ 備蓄用品の確認 点検
- ⑤ 被災地での訪問看護の提供方法
- ⑥ 外部機関との連携方法 (近隣のステーション間の情報共有)

内容	実施日	実施日	実施日
① 情報収集・発信訓練			
スタッフ間の連絡 (就業時間中)			
(時間外)			
災害電話の利用			
通信機器の確認			
外部との連絡方法の確認			
② 避難訓練			
避難経路			
避難方法			
③ 防火訓練			
消火設備の点検			
消火訓練 消火器の点検			
④ 備蓄用品の確認			
非常用品の点検			
看護用品の点検			
備品の点検			
⑤ ステーション間の連携			
ブロック内・地区協議会/連絡会連携網の利用			
MCS・LINE等の利用			

#### 4. 利用者の事前対策・安否確認

- 1) 優先順位を決めて利用者の安否確認リストを作成しよう。  
利用者の住所 連絡先 避難所 主治医 ケアマネジャー 使用している医療器具と業者の連絡先などを記入しておく。PCは、使えない場合が多いので、紙媒体で保管しておこう。
- 2) 利用者が自宅からの避難が必要な場合に備えて、最寄りの避難場所を利用者や家族と確認しておこう。

### Ⅲ 災害発生時の対応（直後～1. 2日目）

#### 1. 災害直後

##### 1) 営業時間内

##### ① 事務所内

- ・自身の安全確保と 声をかけあい互いの安否確認
- ・火の始末 ガスの元栓を閉める 停電時にはブレーカーを切る
- ・自身の家族の安否確認
- ・情報収集と必要時は避難
- ・事務所の被害状況の確認

##### ② 訪問中・移動中

- ・自身の安全確保
- ・利用者 利用者家族の安否確認
- ・自身の家族の安否確認
- ・ステーション（管理者）に連絡し指示確認  
連絡がつかない場合は、安全確認しながら ステーションに戻る  
被害状況に応じて、自身の安全を第一に避難する

##### ③ 管理者による指揮命令

- ・避難するか業務継続かの判断をして、スタッフに指示
- ・訪問継続の場合は、優先順位を決めて適宜対応
- ・終業は、安全に帰宅できる状態であることを確認してから指示する

##### 2) 営業時間外・休日

- ・自身と家族の安全確保
- ・連絡網に従って管理者に連絡し指示確認
- ・訪問が必要な場合は、管理者の指示に従い必ず2人以上で訪問する。



## 2. 災害発生から1・2日

### 1) 指揮命令者（管理者または代理）

- ① 出勤可能な人員の確保
- ② スタッフへの指示
- ③ 正確な情報収集と整理
- ④ 関係機関への連絡
- ⑤ 利用者状況の報告
- ⑥ ステーションのライフラインや設備の復旧作業の指示
- ⑦ 必要な物資の確保や手配

### 2) 訪問看護師（スタッフ）

- ① 利用者の訪問スケジュールの調整（優先順位をつけて計画）
- ② 利用者の安否確認。
- ③ 指揮命令者への報告連絡相談
- ④ ケアマネジャーや各関係機関との連絡調整

#### 注意事項

- ・交通事情等を考慮して、移動手段を決める。
- ・がれきやガラス破片、釘や熱などの危険が予測されるので、底の厚い靴や長靴着用する。
- ・常に自身の安全を第一に行動し、無理な救援行動はしない。

#### 【添付資料】

様式8	訪問看護記録（災害発生～2週間）
資料1（※）	災害時のワンポイントメモ
資料2（※）	利用者用 災害対策マニュアル
資料3（※）	緊急支援手帳 <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 人工呼吸器・在宅酸素 <input type="checkbox"/> 透析

※資料1・資料2・資料3は全て、社）全国訪問看護事業協会編：「訪問看護ステーションの災害対策—マニュアル作成と実際の対応—」p70～p99、日本看護協会出版会、2009より転載しております。

**様式 8**

**災害時訪問看護記録（発災～2週間）**

平成 年 月 日（ : ~ : ）

訪問者氏名

氏名	男・女	生年月日	大・昭 平・令 年 月 日（ 歳）
住所	TEL（ ）	訪問先 交通アクセス 交通手段	自宅 その他（ ） <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 困難 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 自転車 <input type="checkbox"/> 車 <input type="checkbox"/> 徒歩
家族形態	<input type="checkbox"/> 独居 <input type="checkbox"/> 高齢世帯 <input type="checkbox"/> 同居	家族連絡先	
主たる病名		ADL	J A B C
主治医	TEL（ ）	連携病院	TEL（ ）
ケアマネ ジャー	TEL（ ）	医療機器 要処置状況	
身 体 状 況			
自覚症状	看護師の把握した事項 / 実施内容		
<input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> 咳 <input type="checkbox"/> 動悸 <input type="checkbox"/> 呼吸苦 <input type="checkbox"/> 食欲不振 <input type="checkbox"/> 下痢・便秘 <input type="checkbox"/> 排尿異常 <input type="checkbox"/> 睡眠不足 <input type="checkbox"/> 痛み（ ） <input type="checkbox"/> めまい・はきけ <input type="checkbox"/> 疲労感 <input type="checkbox"/> 不安 ストレス <input type="checkbox"/> その他	体温（ ℃） 血圧（ / mmHg） 脈 SPO2 呼吸音 正・不整 量（適・不適）内容（適・不適） 最終排便 性状 量 回数 性状 眠剤 使用 不使用		
身体状況についての総合評価 <input type="checkbox"/> 緊急的改善が必要 <input type="checkbox"/> 改善が必要 <input type="checkbox"/> 経過観察			
薬剤・衛生医材料・医療機器管理 把握/実施内容			
薬剤 <input type="checkbox"/> 充足 <input type="checkbox"/> 不足	衛生医材料 <input type="checkbox"/> 充足 <input type="checkbox"/> 不足	医療機器の管理状況 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適	
電気 <input type="checkbox"/> 復旧済み <input type="checkbox"/> 未復旧 ガス <input type="checkbox"/> 復旧済み <input type="checkbox"/> 未復旧 上水道 <input type="checkbox"/> 復旧済み <input type="checkbox"/> 未復旧			
<input type="checkbox"/> 緊急的改善が必要 <input type="checkbox"/> 改善が必要 <input type="checkbox"/> 経過観察			
食事 <input type="checkbox"/> 充足 <input type="checkbox"/> 不足 水・お茶 <input type="checkbox"/> 充足 <input type="checkbox"/> 不足 その他 <input type="checkbox"/> 充足 <input type="checkbox"/> 不足			
<input type="checkbox"/> 緊急的改善が必要 <input type="checkbox"/> 改善が必要 <input type="checkbox"/> 経過観察			
室内温度 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適 冷暖房機器 <input type="checkbox"/> 充足 <input type="checkbox"/> 不足 毛布・布団 <input type="checkbox"/> 充足 <input type="checkbox"/> 不足 浴場・シャワー <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし トイレ <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし オムツ <input type="checkbox"/> 充足 <input type="checkbox"/> 不足 プラパシ保護 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適 ゴミ処理 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適			
<input type="checkbox"/> 緊急的改善が必要 <input type="checkbox"/> 改善が必要 <input type="checkbox"/> 経過観察			
介護状況			
介護状況 <input type="checkbox"/> 充足 <input type="checkbox"/> やや不足 <input type="checkbox"/> 不足 介護者 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> その他			
<input type="checkbox"/> 緊急的改善が必要 <input type="checkbox"/> 改善が必要 <input type="checkbox"/> 経過観察			
総合評価/特記事項			

災害時のワンポイントメモ

訪問看護ステーション

住所：  
電話：

1 自分の安全確保

- 机・テーブルの下にもぐり身の安全を確保する
- 火気器具の元栓を閉めるなど**火の始末**を行う
- ゆれが一時おさまったら戸をあけて**出口を確保**する。戸が再び閉まらないように手近なものをはさみこんでおく
- あわてて外に**飛び出さない**ように周囲の状況を確認して落ち着いて行動

- 狭い路地や塀際はブロック破片・ガラス破片の落下物に注意
- 広場が近くにある時は一時そこに避難して様子を見る。広場がない時は街路樹などの下に避難する

2 移動方法

- 自転車での移動が無理と判断した場合は徒歩で移動。その場合の自転車の**停車位置**に関してはくれぐれも**注意**が必要。自転車が避難時の障害物になる可能性がある
- 履き物は、スリッパ・サンダルは避ける

3 利用者の身を守る

- ベット臥床中の方
  - ①毛布で引きずる
  - ②1人で引っ張る
  - ③座椅子などを使う
- 車椅子乗車中の方
 

頭部を座布団・ヘルメット・分厚い本などで保護し、移動する
- 歩行できる方
 

「1 自分の安全確保」発生直後に順ずる

緊急移動の方法

■移動時の留意点

- ①あわてず、落ち着いて
- ②複数の支援者で
- ③身体状況を聞いて
- ④薬・めがね・入れ歯を忘れない
- ⑤声をかけ合い、安全に移動

①毛布で引きずる  
なるべく上体を起こす

②1人で引っ張る  
後方、両脇から手を入れる。なるべく上体を起こし引く

③座椅子を使う  
ロープをかけると引きやすい  
2人の支援者がいる場合は前後に立ち療養者を支えながら移動する方法もある。

手のつかみ方

4 AED

上部胸骨右縁

- ①電源を入れる。
- ②正しい位置に電極パッドを貼付。
- ③AEDが脈拍の有無を解析。脈拍を感知できなければ、心尖部音声の指示に従い除細動を施行。
- ④施行直前に音声で「離れてください」という指示があるので、自分も含め周囲の人の安全を確認。
- ⑤ボタンを押す。

5 災害時の連絡先メモ

拠点病院	
医療機器メーカー	
警察署	
市役所	
消防署	
電力会社	
水道会社	
ガス会社	

6 テレビ ラジオ

- 地域のラジオ局・有線放送等
- ch
- ch

7 テレフォンサービス

- 災害に関する情報を電話で聞くことができる
- 〈市町村災害対策テレフォンサービス〉
- TEL

8 災害伝言ダイヤル

- 災害伝言ダイヤル「171」  
被災地の方が録音した安否などに関する情報を他の地域の方が聞くことができるほか、他の地域の方から被災地の方へのメッセージを送ることも可能

① 171+1	171+2
② 自分の電話番号	相手の電話番号
③ 安否を知らせる	安否を確認

9 緊急時の避難先・連絡先について

- いざという時のために避難場所や外で災害にあった時のために10～12のようなことを話し合っておきましょう。
- 親類の連絡先などは、できれば県外の方を登録しているほうがよい(大震災だと県内全域が不通になる可能性があるため)

10 家族の連絡先

11 親戚の連絡先

12 家族の避難先

13

- 大震災の際にはあわてないこと・無理をしないことが基本
- 日頃からの備えが大切  
(自分自身の備えの確認・利用者の備えの確認)
- 室内環境・落下物はないか
- 重要な薬の準備はできていますか
- 避難場所について確認し合っていますか
- 連絡先は話し合っていますか

14

- 通信が開通したらステーションに自分の安否を簡潔・明瞭に報告をする
- 氏名
- 安否
- 居場所

15 マイプロフィール

- 〈名 前〉
- 〈住 所〉
- 〈電 話〉
- 〈血液型〉

16 メモ

マニュアル内容一覧表(定期点検チェック表)

※各項の作成(点検作業終了)・ファイリングを確認したらサイン

様用

---

災害対策マニュアル

	内容	サイン
災害が起きたら	1. 火災発生時の3大原則	
	2. 地震発生時の3大原則	
	3. 緊急連絡先	
	4. 災害用伝言ダイヤルの使い方	
	5. 被災場所一覧	
	6. 関係防災情報 一覧表	
	7. 毎年1回、確認しましょう	
個別の対応	8. 特別な医療を受けている方 【人工呼吸器を装着している方】	
	● 日頃からの防災訓練	
	● 災害直後の確認事項	
	【在宅酸素療法をしている方】	
	● 日頃からの防災訓練	
	● 災害直後の確認事項	
	【人工血液透析を受けている方】	
	● 日頃からの防災訓練	
	● 災害直後の確認事項	
● 2～3日後の確認事項		
【インスリン注射をしている方】		
● 日頃からの防災訓練		
9. 緊急支援手帳は手元にありますか？		

年 月 日 作成

次回点検予定 年 月 日

訪問看護ステーション名

## 1. 火災発生時の3大原則

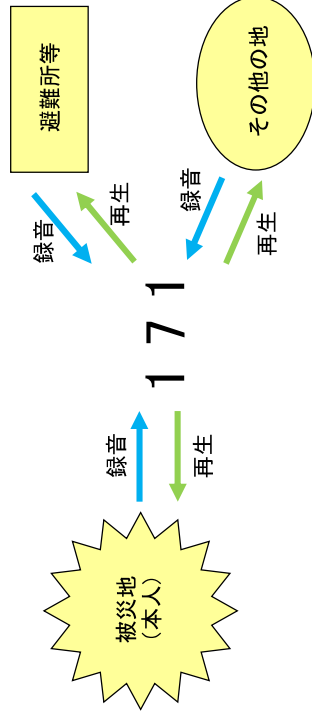
1. 大声で「火事だ」とさけぶ
2. 早く消す
3. 早く避難する(身の安全を第一に)

## 2. 地震発生時の3大原則

1. 身を守る
2. 火の始末をする
3. 安全な場所へ避難  
(戸を開けて、出口を確保)

## 4. 災害用伝言ダイヤルの使い方

- ①「171」をダイヤルします。
- ②「こちらは、災害伝言ダイヤルセンターです。録音される方は「1」を、再生される方は「2」を、暗証番号を利用する録音は「3」、暗証番号を利用する再生は「4」をダイヤルしてください」というアナウンスが流れます。
- ③「1」を押して、電話番号( )を入力し、自分の安否を録音します。
- ④「2」を押して、(相手が録音していれば)相手の電話番号を入力すると、相手の安否が確認できます。



## 5. 避難場所一覧

1.	
2.	

## 6. 関係防災情報一覧表

連絡先	電話番号(固定・携帯)	備考
消防署・救急車	119	
警察署	110	
役所		
災害用伝言ダイヤル	171	

## 3. 緊急連絡先

氏名	電話番号(固定・携帯)	備考

■ 7. 毎年1回、確認しましょう

項目	確認年月日	確認者
<p>身の保護</p> <p>背の高い家具は固定する</p> <p>安全のためにベッドを利用する</p> <p>ベッドの周りに物を積み上げない</p> <p>ガラスの飛散防止として窓ガラスにフィルムを貼る</p> <p>火元周辺を整理する</p> <p>●地震が起きたら まず手近の座布団、毛布などで頭を保護し、家具や戸棚から離れます</p> <p>照明器具等の落下から身を守るため机やテーブルの下などにもぐります</p> <p>窓や戸を開けて出口を確認します</p> <p>窓や戸口が開かなくなっていたら、たたき割って出口を確認します</p>	<p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p>	
<p>火の始末</p> <p>ガス漏れに注意し、元栓を閉めます</p> <p>油が流れ出ている場合には、濡れた布などで覆って着火を防ぎます</p>	<p>/ /</p> <p>/ /</p>	
<p>電気</p> <p>停電した場合、電気の再供給に備えて電気器具はコンセントから抜き、ブレーカーを切っておきます</p> <p>停電しなかった場合は、電気製品のプラグが抜けていないか点検します</p>	<p>/ /</p> <p>/ /</p>	
<p>避難場所</p> <p>●地域の避難場所の確認</p> <p>地方公共団体で設けている広域避難所の場所を確認しておきます</p>	<p>/ /</p>	
<p>環境</p> <p>●住宅周辺の地理的環境などの確認</p> <p>山裾、丘陵傾斜地では崖崩れ、埋立地や河川沿いの地域では液状化現象、海岸地域では津波に注意するなど住宅周辺の地理的環境を確認しておきます</p>	<p>/ /</p>	
<p>連絡</p> <p>●関係各所との連絡</p> <p>連絡先を確認しましょう (災害時には、訪問看護ステーションへ安否を連絡しましょう)</p>	<p>/ /</p>	

■ 7. 毎年1回、確認しましょう(つづき)

項目	確認年月日	確認者
<p>セルフケア</p> <p>●器具管理ができるよう、日頃から準備しておきます</p> <p>・尿留置カテーテルや経管栄養チューブが抜けた場合の対処方法</p> <p>・停電時など災害時の電源確保の方法</p> <p>・重症患者は緊急医療手帳の活用による受療確保の準備</p> <p>・予備のカテーテルやカニューレの確保</p>	<p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p>	
<p>協力体制</p> <p>民生委員や近隣の協力を得られるよう体制づくりをしておきます</p> <p>家族だけでなく、親戚やヘルパーさんにも介護に慣れておいてもらいます</p>	<p>/ /</p> <p>/ /</p>	
<p>その他</p> <p>NTT災害伝言ダイヤルの使用方法(4頁参照)を覚えておきます</p> <p>●「緊急支援手帳」……1年に1度は内容の確認をします</p> <p>●「非常持ち出し物品」……3日間くらいは自力で持ちこたえられるような非常持ち出し袋を備えます</p> <p>・水は1人1日3リットルが目安で、3日分では9リットル必要</p> <p>・非常食は、エネルギー源になるもの、軽くて小さいもの、保存のさくもの、調理のいらないものなどを準備します</p> <p>・経管栄養の場合は、缶入やパック等そのまま使用できるものを用意します</p> <p>・常用薬の準備も必要です</p>	<p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p> <p>/ /</p>	

■ 8. 特別な医療を受けている方（個別対応用）

【人工呼吸器を使用している方】

●日頃からの防災訓練

項目	確認年月日	確認者
医療機器・医療用品 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予備物品の確保や収納、共有ルートの確保</li> <li>・ 人工呼吸器（アンビューバッグ、呼吸器回路）</li> <li>・ 吸引器（充電式吸引器、手動式吸引器、注射器による吸引）</li> <li>・ 加湿器（乾燥を防ぐために人工鼻）</li> <li>・ 医療器具（吸引カテーテル、滅菌水、消毒薬、滅菌手袋、注射器50mL、人工鼻、衛生材料等）</li> </ul>	/ /	
停電対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 停電になった時を想定してアンビューバッグの操作ができる人の確保と協力体制の確認</li> <li>・ 人工呼吸器の設定値を目的のつく所に貼っておく</li> <li>・ 発電機・バッテリー・ガソリンを用意する</li> <li>・ 代替物品が使えるように日頃から訓練しておく</li> <li>・ 予備物品を準備し取り出せる所に保管しておく</li> <li>・ 緊急連絡先、入院可能病院のリストをつくる</li> <li>・ 医療機器業者への連絡方法を確認しておく</li> </ul>	/ /	
人的資源 <ul style="list-style-type: none"> <li>①避難のために                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 搬送のための人手の確保（最低1人の呼吸ケアができる人が必要）</li> </ul> </li> <li>②情報公開                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の病気や置かれている状況を近隣の人や地域自主防災会に申し出て、緊急時搬送が必要な人のリストに入れてもらう</li> </ul> </li> <li>③緊急時にコミュニケーションが取れるように準備する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字盤の練習</li> <li>・ 文字盤を読める人を増やす</li> </ul> </li> <li>④災害時安否を確認する人を決めておく</li> </ul>	/ /	

【人工呼吸器を使用している方】(つづき)

●災害直後の確認事項

確認年月日	確認者
/ /	
/ /	
/ /	
/ /	
/ /	
/ /	
/ /	
/ /	
/ /	
/ /	
/ /	

**【人工血液透析を受けている方】**

●日頃からの防災訓練

項目	確認年月日	確認者
自己の透析内容、薬の理解、これを含めた携帯用透析患者カードの常時携帯	/ /	
現在通院中の透析施設が透析不能になった場合に備え、自宅に近い他の透析施設の把握	/ /	

●災害直後の確認事項

【直後】

項目	確認年月日	確認者
①避難所への非常持ち出し品と患者カードや「緊急支援手帳」を持って避難	/ /	
②自分の通っている透析施設の透析の可否や、他の透析施設の情報やラジオ等で確認	/ /	
③避難所では、避難所の責任者に次の透析日時を告げ、通院移送の手配を受ける（自力で通院できる人は、自転車、バイク等により移動する）	/ /	
④通常の透析に復帰するまで、水分、カリウム、エネルギーに気をつけ、節制した生活を送る	/ /	

【2～3日後】

項目	確認年月日	確認者
①通っている透析施設が不可能な場合、主治医と連絡できれば主治医の指示に従い、透析可能な施設で透析を実施	/ /	
②連絡不能の場合は、自分で透析可能な施設に連絡を取り、患者カードや「緊急支援手帳」を透析施設の医師に渡して、透析の条件や内容を知らせ、透析を実施	/ /	

**【在宅酸素療法をしている方】**

●日頃からの防災訓練

項目	確認年月日	確認者
①日常的に電気が必要な療養者であることを電力会社に伝達しておく。消防署にも在宅酸素療法を実施していることをあらかじめ伝えておき、災害時の対応を了解してもらう	/ /	
②予備物品の確保・収納 ・携帯用酸素ボンベは予備を1本用意 ・延長チューブ、蒸留水、カヌー 人工呼吸器（アンビニューバグ、呼吸器回路）	/ /	
③酸素供給業者への連絡方法の確認	/ /	
④普段から火気に注意し、震災時に火気を切ることの訓練、携帯用酸素への切り替えの訓練	/ /	
⑤パニックになると酸素消費量が増えるので、できるだけ落ち着いて腹式呼吸を行って行動する訓練をしておく	/ /	

●災害直後の確認事項

項目	確認年月日	確認者
①療養者の身体状況の確認	/ /	
②低酸素状態（呼吸、意識など）の観察	/ /	
③酸素供給器が使用できない時は、携帯用ボンベへの切り替え	/ /	
④近隣支援者への協力の呼びかけ、可能な場合は避難所への避難	/ /	
⑤酸素供給業者、医療機関、訪問看護ステーションへの連絡	/ /	



**【インスリン注射をしている人】**

● 日頃からの防災訓練

項目	確認年月日	確認者
<ul style="list-style-type: none"> <li>管理物品はひとまとめにし、手元に置いておく</li> <li>注射器・インスリン製剤・物品（血糖測定器・アルコール綿）などの予備を揃えておく（2週間分）</li> <li>糖尿病手帳などに管理内容を記入しておく（インスリンの種類・単位・方法・食事カロリー・病院）</li> <li>インスリンの保存方法を調べておく（冷所 常温保存か）</li> <li>備蓄品にブドウ糖を入れておく</li> <li>備蓄品（食料品）のカロリーと日頃のカロリーを調べる</li> <li>インスリンが内服薬に代用可能かを医師に確認する</li> <li>管理方法、その他注意事項などを医師に確認しておく</li> <li>本人・家族を含め、低血糖症状について周知、予防と対処方法を確認しておく</li> </ul>	            	           

緊急時の連絡先

氏名	続柄など	電話番号など
	家族	
	家族	
	親類	
	親類	
	介護支援専門員	
	居宅介護サービス事業所	
	訪問看護	
	かかりつけ医	
	医療機器メーカー	

家族の避難先・集合場所

■避難先（避難所）

- ①名称 \_\_\_\_\_
- ②TEL \_\_\_\_\_
- ③避難者 \_\_\_\_\_

■集合場所

- ①名称 \_\_\_\_\_
- ②TEL \_\_\_\_\_
- ③避難者 \_\_\_\_\_

## 緊急支援手帳

——災害時（緊急時）のお願い——

私は、日常的に医療を継続して受ける必要があります。

この手帳に必要な医療の情報を、記載していますので、緊急時に参考にしてください。

..... やまおり .....

..... やまおり .....

使用している薬剤・用量・服用上の注意
【中断できない薬】
【その他の薬】
禁忌薬剤
アレルギー

血液型	A・B・O・AB・Rh+・-
連絡先	訪問看護 アフターシフト
連絡先	かかりつけ医
認知機能	見守りが必要 自立 あれば 介護者が 必要
要介護度	要支援（1 2） 要介護（1 2 3 4 5）
病名	
電話番号	
住所	
生年月日	昭平 年 月 日 明大
氏名 性別	男 女

緊急時の連絡先

氏名	続柄など	電話番号など
	家族	
	家族	
	親類	
	親類	
	介護支援専門員	
	居宅介護サービス事業所	
	訪問看護	
	かかりつけ医	
	医療機器メーカー	

家族の避難先・集合場所

■避難先（避難所）

- ①名称 \_\_\_\_\_
- ②TEL \_\_\_\_\_
- ③避難者 \_\_\_\_\_

■集合場所

- ①名称 \_\_\_\_\_
- ②TEL \_\_\_\_\_
- ③避難者 \_\_\_\_\_

## 緊急支援手帳

- 人工呼吸器
- 在宅酸素療法

——災害時（緊急時）のお願い——

私は、日常的に医療を継続して受ける必要があります。

この手帳に必要な医療の情報を、記載していますので、緊急時に参考にしてください。

やまおり

やまおり

【人工呼吸器】	
気管切開（有無）	
1回の換気量	
呼吸モード	
呼吸回数	
酸素濃度	
カニューレサイズ	
【酸素療法】	
安静時または就寝時	
吸入量	ℓ/分
吸入時間	時間/日
労作時	
吸入量	ℓ/分
吸入時間	時間/日
器具名	
メーカー名	
業者連絡先	

氏名・性別	男
生年月日	明大 昭平 年 月 日
住所	
電話番号	
病名	
要介護度	要支援（1 2） 要介護（1 2 3 4 5）
認知機能	見守りが必要 自立 あるいは 介護者が 必要
かかりつけ医	
連絡先	
訪問看護 アフェーション	
連絡先	
血液型	A・B・O・AB・Rh+・-

緊急時の連絡先

氏名	続柄など	電話番号など
	家族	
	家族	
	親類	
	親類	
	介護支援専門員	
	居宅介護サービス事業所	
	訪問看護	
	かかりつけ医	
	医療機器メーカー	

家族の避難先・集合場所

■避難先（避難所）

- ①名称 \_\_\_\_\_
- ②TEL \_\_\_\_\_
- ③避難者 \_\_\_\_\_

■集合場所

- ①名称 \_\_\_\_\_
- ②TEL \_\_\_\_\_
- ③避難者 \_\_\_\_\_

# 緊急支援手帳

透析

——災害時（緊急時）のお願い——

私は、日常的に医療を継続して受ける必要があります。

この手帳に必要な医療の情報を、記載していますので、緊急時に参考にしてください。

やまおり

やまおり

やまおり

透析条件			
透析方法	血液透析・CAPD・その他（ ）		
透析回数	週	回	透析曜日
透析時間	時間	分	透析時間帯
タイプライザー	[3.過面積]		
血液流量	ml/分		
透析中の食事	有・無・その他（ ）		
血液型	型	体重 (kg)	身長 (cm)
原疾患	慢性腎炎 糖尿病性腎症 その他（ ）		
合併症			
肝炎	HBS抗原 ( + )	HBe抗原 ( + )	HBC抗体 ( + )
	HBS抗体 ( + )	HBe抗体 ( + )	HCV抗体 ( + )

氏名	性別	生年月日	住所	電話番号	病名	要介護度	認知機能	かかりつけ医	訪問看護 入付シヨク	連絡先	血液型
男	女	明大 昭平 年月日				要支援 (1 2) 要介護 (1 2 3 4 5)	見守りが必要 あれば 自立				A・B・O・AB・Rh+-]

だにかり

## 【マニュアル作成のための引用・参考文献】

- 1) (社) 全国訪問看護事業協会編：「訪問看護ステーションの災害対策—マニュアル作成と実際の対応—」, 日本看護協会出版会, 2009
- 2) 公益社団法人岐阜県看護協会 災害看護マニュアル  
[http://www7.ocn.ne.jp/~gifkango/shokunou/saigaikango\\_manual.html](http://www7.ocn.ne.jp/~gifkango/shokunou/saigaikango_manual.html) (最終アクセス, 2013. 2. 15)
- 3) 大阪府地域防災計画 (平成 21 年 9 月作成 (平成 24 年一部修正) )  
<http://www-cds.osaka-bousai.net/pref/DisPreventPlan.html> (最終アクセス, 2013. 3. 6)
- 4) 大阪府災害等応急対策実施要領 平成 23 年 9 月改正 大阪府  
<http://www.pref.osaka.jp/attach/10425/00053081/yourixyou%20.pdf> (最終アクセス, 2013. 3. 6)
- 5) 大阪市地域防災計画 <震災対策編> (平成 24 年 7 月)  
<http://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/page/0000011958.html> (最終アクセス, 2013. 3. 6)
- 6) 大阪府救急医療機関災害対応標準マニュアル (社) 大阪府医師会 2011
- 7) 全国訪問看護事業協会編：災害に立ち向かった看護師たちの記録 その時訪問看護ステーションは,  
(社) 全国訪問看護事業協会, 2012
- 8) 宮城県訪問看護ステーション連絡協議会：東日本大震災における宮城県訪問看護ステーションの被害～復興状況」, 2012
- 9) 福島県内訪問看護ステーション連絡協議会：災害対策マニュアル  
<http://flan-st.com/manual/> (最終アクセス, 2012. 7. 10)
- 10) 南裕子・山本あい子編： 災害看護学習テキスト実践編, 日本看護協会出版会, 2007
- 11) 救急医学 災害医療 東日本大震災の検証から見えてきた今後の方向性, へるす出版, Vol. 37 No1  
2013
- 12) 日本看護協会出版会編集部編：ルポ・その時看護は ナース発東日本大震災レポート, 日本看護協会出版会, 2012